

第569号



喬木村公民館：長野県下伊那郡喬木村6664



発行日 2016年 8月17日
発行責任者 喬木村公民館長 徳原美穂
編集責任者 公民館編集部長 仲田久志
印刷 龍共印刷株式会社

公民館楽遊塾 第三講座
蓮池薫氏講演会
演題「夢と絆」

七月二十四日、真夏を感じさせる晴天の日曜日、公民館楽遊塾第三講座として、蓮池薫氏講演会が行われました。

蓮池氏は、昭和三十三年新潟市柏崎市で生まれ、中央大学三年在学中の一九七八年に拉致され、二十四年間北朝鮮での生活を余儀なくされました。

拉致というデリケートな問題に、具体的にどの程度お話をいただけるのか心配しながら講演が始まりましたが、拉致された当時の状況を詳細に話され、お話の中にひき込まれていきました。

北朝鮮の工作員と思われる数名の人物に船で北朝鮮に連れて行かれ、その後奥様になる女性とは別々に暮らし、お互いに相手は日本に帰されたと思ひ込まれ、孤独な辛い日々を送られて

蓮池氏は拉致を忘れないでという思いで講演をされています。その数は本年度中に沖縄を除く四十六都道府県に及ぶそうです。

今現在、北朝鮮との交渉は中断状態です。講演を聞いて、私達にできる事はこの拉致問題を忘れずに、できる限りの声を上げていくことではないかと強く思いました。



講師 蓮池薫さん

最後にありますが、お暑い中、多くの方に参加いただきありがとうございます。

村さん、村澤さんを講師に夏の星座の話をお聞きした後、望遠鏡をのぞかせていただきました。初めて見る土星の輪や火星に歓声が上がっていました。

二日目は起床後、六時半のラジオ体操で体を動かし、目が覚めたところで朝食のサンドイッチを班毎に作って食べました。

最後に、学遊館をみんなできれいに掃除した後、参加した子ども達がそれぞれに感想を発表お世話になったスタッフにお礼を言って解散となりました。

参加した子どもの中には、親の手をはなれておとまりが初めてという子もいました。子ども同士で協力し助け合いながら過ごす事ができたのではなないかと思ひます。

最後に、講師の方々や子ども学遊館長さんの協力により無事おとまり体験を終えることができました。心より感謝申し上げます。喬木村社会教育委員会

「楽しかったおとまり会」
松澤あかりさん
おとまり会で楽しかったことは三つあります。

一つ目は、Aコープでのおかいです。わたしは大人といっしょにしか行けなかったから好きな物が買えてうれしかったです。

二つ目は、おたのしみ会の花火です。ことしの夏、はじめて手持ち花火をやったからです。

三つ目は、朝食を作ったことです。わたしはひきしづりに一人でごはんを作ったからです。

おとまり会をはじめたので、うちでも友だちといっしょにごはんを作って、いっしょにねたります。

たのしみ会は、おたのしみ会の花火です。ことしの夏、はじめて手持ち花火をやったからです。

おとまり会をはじめたので、うちでも友だちといっしょにごはんを作って、いっしょにねたります。

命があぶないんだぞ。権太はおまえをにくんでいるし、部落のしゅうはおまえをおっかながっているしなあ。人間に話しかけるようにいうのですが、黒い星は、だっ子のようにうなり続けます。太郎は話しかけながら夜が明けると、家中で炭焼きがまに出かけます。

「黒い星とはやぶさとのほえ声を聞きつけて、部落の狩り犬どもが、集まってきまして、黒い星がくさりとつなげて自由を失っているのを見てとると、一びきがあと足めがけてとびつきまして、はやぶさは、後ろから黒い星にとびつくと、黒い星のかたさきに、がぶりとか

命があぶないんだぞ。権太はおまえをにくんでいるし、部落のしゅうはおまえをおっかながっているしなあ。人間に話しかけるようにいうのですが、黒い星は、だっ子のようにうなり続けます。太郎は話しかけながら夜が明けると、家中で炭焼きがまに出かけます。

「夏のおとまり会」
近藤玲未さん
七月二十三日、二十四日におとまり会をしました。

三、四六年生のみんなでは、星を作って面白い物をしたり、星を見たり、花火をして、楽しく遊びました。

来た時は、「みんな来るかな。」と心配したが、はんを分けてはみ込んでいきました。最近、ススキだけになったり、送り火も松の「あかし」を使っていたものを、ただ細く木を割った物にしてしまったりと次第に手を抜いてきています。

お買物も、はじめてのおつかいのように、はんの人と協力してパンや朝食の材料を買って、学遊館でカレーの野菜を切ったり火をたいてカレーを作って食べました。みんなで作ったので、いつもよりおいしかったです。

星のかんきつと花火もみんなと話を聞いてちゃんとできました。

起きてからも、朝食を作っておいしく食べました。楽しかったのでまたさかかく作ってほしいです。

お正月の松飾りも次第に簡略化されてきていますが、私たちの世代が何とか伝統や技術を身につけていかないと、若い世代は何も知らないまま、何もせずにお正月やお盆を迎えてしまいます。

その方が楽しいという考えもあるのですが、命のつながりとか先祖を敬う気持ちとか、生活の節目として、日本人が長く培ってきた伝統を大切にしていかななくてはならないと思います。

十二月には育成会でおやすみ作りをするのですが、たっくさんの子供達が小さな手で、一生懸命おやすみを作ってくれます。小さな時に体験したものは、大人になっても忘れず、更に次の世代に伝えていくべきだと思います。

命があぶないんだぞ。権太はおまえをにくんでいるし、部落のしゅうはおまえをおっかながっているしなあ。人間に話しかけるようにいうのですが、黒い星は、だっ子のようにうなり続けます。太郎は話しかけながら夜が明けると、家中で炭焼きがまに出かけます。

『黒い星ものがたり』41

『黒い星ものがたり』掲載作品

黒い星十全集 久保田 毅

黒い星十全集 三

「山の大将」その四 昭和四十四年十一月

ついに、太郎は黒い星と別れ、炭小屋の中にしゃがみこんでいます。「あらしの中でくらしした時が思い出されなくなります。黒い星がいなかったら太郎の命は助かっていなかったはず。それなのに

「黒い星は、あのアルプスのどこかを歩いているんだ。悲しくなめまわすのでした。」

「『お、黒い星だ。帰ってきた。やっぱり帰ってきた』太郎はうれしくて大きなさびび声をあげました。黒い星も、太郎を見かけると、太郎にとびついていきました。頭をなでながら『黒い星よ、こらしておかなければ、おまえの



に大きな声で来るように言います。しづしが近づいてきます。そして、くさをまきつけられると、うなり声をあげ、くさりにかみつきます。

「太郎は、黒い星の頭をなでながら『黒い星よ、こらしておかなければ、おまえの

命があぶないんだぞ。権太はおまえをにくんでいるし、部落のしゅうはおまえをおっかながっているしなあ。人間に話しかけるようにいうのですが、黒い星は、だっ子のようにうなり続けます。太郎は話しかけながら夜が明けると、家中で炭焼きがまに出かけます。

今年も盆月を迎え、ご先祖様を迎える準備をしなくてはなりません。私の仕事は、お墓の掃除とススキで盆ごさを編むこと、送り火用の砂と石を河原に取りに行くこと、送り火でたぐ木の準備をすることです。

中体連県大会 喬木中野球部 歴代最高記録 県大会3位!!

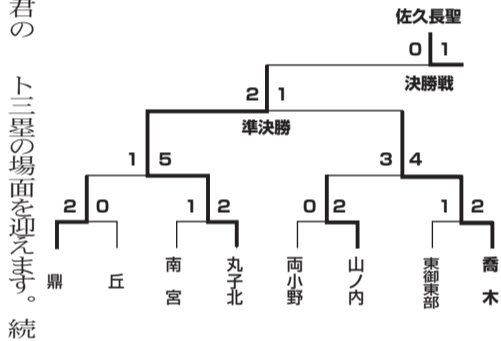


中学校野球部31名の勇姿

地区予選を勝ち抜いた喬木中学校野球部は、七月十六日・十七日に開催された中体連長野県大会に出場しました。

初戦は東御東部中学校と対戦し、二回の攻撃で一点先制されると〇―一のまま

六回の攻撃を迎えます。六回の攻撃で四番桐生君と六番宮島君の二本の長打で同点に追いつくと、七回では勝負がつかず延長戦へ突入。九回の攻撃、1アウト二塁のチャンスを作ると、三番市岡君のレフト前タイムリーヒット



ついで、二回戦は、山之内中学校と対戦。初回に2アウト二塁のチャンスを作ると、五番知久君のセンターのセンターオーバーの二点タイムリー3ベースで先制す

ついで、一打で二点を奪い、四三で見事逆転勝利しました。翌日の準決勝は、名門丸子北中学校と対戦します。二回の攻撃でチャンスをもつて、三回に相手の連打で同点とされます。その後は、ピッチャー桐生君の粘りのピッチングで得点を与えず、一

わんぱく相撲 全国大会出場

七月三十一日、両国国技館で第三十二回わんぱく相撲全国大会が行われ、喬木村から知久幸多朗君が長野県飯田の六年生代表として参加しました。

全国から百三十一チームが参加しましたが、本格的なチームからいろいろありました。

こんな大きな小学六年生がいるのかと思うと、本当に小さな子どもたちまでいて、みんながんばれと応援したくなりました。白いま

応援の家族の人たちも取り組みになると熱が入りもりあがっていました。飯田の応援席は、柵席が六個もあり少し大相撲の気分を味わうことができました。

応援の家族の人たちも取り組みになると熱が入りもりあがっていました。飯田の応援席は、柵席が六個もあり少し大相撲の気分を味わうことができました。

編集後記

連日の猛暑で体力的につらいこの時期ではあるが、八月七日には立秋を迎え暦の上では秋となった。お盆には、普段なかなか会えない親戚が里帰りし、お墓参りをする光景を目にする。

戦後七十一年、平和で何不自由なく過ごせる今日、先祖が経験してきた苦勞を想うと涙が出てくる。

引き継がれたこの命に感謝し、生かされているこの身をどのように自分らしく輝かせていくのか、日々の生活を問い、見つめ直したい。

たかぎ俳句クラブ 文月句会詠草

宵闇に光舞ふ里蛩狩
草笛を習ひ吹く音のふるさとや
篝火を水面に引きて鵜飼船
咲き乱れ花粉溢るる百合の花
早苗田に蝌蚪群なして波立てり
夏雲や里の山々緑映ゆ
十五夜の河鹿の音色こまやかに
菖蒲湯に久しき和み兄弟

田中 君子
村上たか子
小林 カツ
秦 恭子

朝露を宿して優し月見草
涼やかな若き瞳や初選挙
郭公の呼び合ふ山路夫の里
青帽子の園児に弾むザルの魚
試歩の道紫陽花の青瞳にしみる
梅雨晴れや雲の流れを追ふ一日
短夜のテレビのテニス見てあきず
露の葉の伸び切りて露したたれり
被災地の友の明るき鱗雲
梅雨晴間くるりと廻す仕上げ傘
建添ふる墓誌の輝き木の芽風
競泳す少女等選びすぐられて

松葉 孝子
原 美恵
砂場 文子
松尾萬里子
吉川てる子
本山 栄信

武田信玄狼煙上げのお知らせ

富田城山、加々須茶臼山で狼煙上げを行います。

喬木村狼煙上げ実行委員会では今年も富田の城山と加々須の茶臼山で狼煙上げを行います。

当日はまず参加者全員で太い竹で骨組みを作り、その葉を大量に載せて、狼煙作りから体験していただきます。

その後、狼煙の話や地域の歴史について少し勉強していただき、リレーされてくる他地区の狼煙を確認してから、子どもさんを中心に狼煙に火をつけます。

この狼煙上げは、戦国時代、武田氏が軍事上の必要性から張り巡らせた狼煙を再現させたいということで始まりまし。

最初は飯田下伊那で始めたものが、上伊那・諏訪へと広がり、今年山梨の韮崎市や甲斐市へもつながりました。

また一部つながらない部分も残っていますが、近い将来、根羽の峠路峠から信玄の居城であった躰躰が崎の館まで「狼煙リレー」が完成するのではないかと考えています。

地域の歴史に触れたり、狼煙上げの貴重な体験が出来る機会ですので、子供さんにも大勢参加して頂きたいと思ひます。

今年左記の日程で行いますので、時間までに現地にお集まり下さい。

○実施日 九月五日(土)
〔雨天の場合六日(日) 午後二時現地集合〕
○時間 九時二〇分現地集合
○集合場所 富田城山 加々須茶臼山
○その他 持ち物等必要ありませんが望遠鏡などある方はお持ち下さい。

お知らせ 「高登」特別展開催中

喬木村出身の名力士高登

元関脇「高登」は、幼少期を伊久間で過ごしました。当時喬木村にあった竜東農蚕学校を卒業後、名門高砂部屋へ入門。高登の四股名で昭和二年一月に初土俵を踏み、4年後、23歳若さで入幕を果たし、関脇まで上り詰めます。大関昇進に手が届くまでの成績を残しましたが、左ひざの負傷をきっかけに引退しました。引退後は大山部屋を開設し弟子の育成やNHK解説員として活躍し昭和37年に享年53歳で生涯を閉じました。

場所 喬木村歴史民俗資料館 ロビー
日時 9月29日(木)まで
開館日 火・木・日曜日 9:00~16:00 ※入場料無料

喬木村教育委員会・喬木村歴史民俗資料館
お問い合わせ 0265-33-2002(喬木村教育委員会)